

---

## Assassination target

依里

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A s s a s s i n a t i o n   t a r g e t

### 【Nコード】

N 3 3 8 3 0

### 【作者名】

依里

### 【あらすじ】

18歳の女の子。

大切な人を守るために、彼女は人を殺し続けるー。

それが自分の宿命だと、それしか方法はないのだと言い聞かせて。

そんな彼女の次の標的は同じ年の男子高校生。

その男は死を恐れなかった。

そして次第に、彼女の大切な人になっていくー

生きてほしい人のために罪を犯す

では生きてほしい人が標的になってしまったら？

彼女の決断は、運命は、そして行きつく先は…。

unnecessary感情（前書き）

【R15】

性描写、過激な殺害シーン、流血シーンはありませんが、殺人に伴う描写はございますので苦手な方は注意してください。

20歳以下の女の子が殺し屋をするという、完全なるフィクションです。

現実離れしております。

## 不必要な感情

この世界に、なんでとかどうしてだとか、そんなものはない。  
好きだとか嫌いだとか、非合理的なものも存在しない。ただただ私は、人を殺すのだ。

なんて人は簡単に死ぬのだろう。

目の前でもがき苦しんでいる男を眺めながら、人の命のはかなさを実感した。

ほら、方法はいくらだってある。撃つも刺すも絞めるも殴るも、好きにすればいい。その中でも私は絞めるを好む。クイツとワイヤーを引っ張ってやれば嗚咽を漏らして男は死に至った。

そう、私は殺し屋なのだ。

この時代にそんなものがあるのか？ そう思う人は少なくないだろう、しかし実際存在するのだ。だから私は人を殺しているのだ。

人を殺して生活をする。

理解などいらない、だって理解されなくても、私は殺人を犯さなけ

ればならないのだから。わかってもらえなくなつて病めることはできないのだから。

私はすぐさま電話をかける。

「こちらユジュリア、標的八番完了いたしました。」

電話を切ると、右ポケットからカッターナイフを取り出し、左手首に当てた。

銀色の刃で線を入れると、赤く染まる。

…嗚呼、また人を殺した。

この手首の傷は一体何本目だろう。

いいや、感傷に浸つても意味はない。そんな感情、必要ない。そう一瞥し、捲つた袖を元に戻す。

仕事でも何でもない。朝起きて歯磨きをする、それくらいのもんなのだ。

なのになぜ、手首の傷からあふれる血は止まってくれないのだろう。

ボスから渡された書類に目を通す。すると驚いたことに、次の標的は私と同じ年：つまり、現在高校三年生くらいだろう、男性だった。

「高校：生」

思わず口から洩れるその言葉。

狙われる理由など知らない。だけど私はその男：達川<sup>タテカワ</sup>怜<sup>リョウ</sup>がひどく憎らしく思えた。

ともかく長居は禁物だ。帰宅してからじっくり目を通そう、そう思い私は標的番号八番：もう名前も覚えていない男の殺害現場を後にした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3383o/>

---

Assassination target

2010年10月16日14時16分発行